

## 2 学ぶ楽しさを生徒に実感させる古典の指導の工夫

前掲の、新学習指導要領改訂に際しての教育内容の主な改善事項のうち、国語科に特に関わるものとしては、「言語活動の充実」、「伝統や文化に関する教育の充実」がある。

「言語活動の充実」については、国語科はもちろんであるが、各教科においても批評、論述、討論などの学習を充実することが求められている。本研究（国語科）においては平成21年度、平成22年度に「言語活動の充実」を研究テーマとし、言語活動を取り入れた指導をさらに充実させるための工夫を探った。

そこで今年度は「伝統や文化に関する教育の充実」に着目した。高等学校国語科における「伝統や文化に関する教育の充実」とは、すなわち、古典指導の充実ということになる。

平成17年度教育課程実施状況調査における「生徒質問紙調査」の回答からは、生徒の約7割が古典に対して苦手意識をもっているという現状が浮き彫りになった※1。県内の国語教師からの聞き取りによると、生徒が抱く古典への苦手意識は、調査から数年が経過した現在においても、あまり改善されてはいないようである。

もちろん、古典を苦手だと感じること自体には個人の好みもかわる。しかし、苦手であるという意識がその科目に対する学習意欲を低下させてしまうことを、教師は体験的に知っている。古典においても、生徒が抱く苦手意識が古典に対する学習意欲を低下させてしまうのではないかと懸念される。学習意欲そのものが低下してしまうと、古典の豊かな世界に触れる前に生徒は古典を学習すること自体を断念してしまいかねない。

古典を扱う授業において、教師は、生徒の約7割が古典に対して苦手意識をもっているという現状を踏まえ、生徒を古典の学習に向かわせるための第一歩として、まずは、学ぶ楽しさを生徒が実感できる学習場면을授業の中に設けることから始めなければならない。学ぶ楽しさを生徒に実感させる古典の授業を構想し、実施し続けていくことは、古典に対する生徒の苦手意識を緩和すること、さらには、古典に対する生徒の興味・関心を高めることにもつながると思われる。そのような指導を積み重ねていくことは、高等学校国語科における「伝統や文化に関する教育の充実」に直結するだけでなく、生徒の、言語文化の継承と創造の担い手となる資質を育成することにも資する。

そこで、今年度の「高等学校における教科指導の充実」（国語科）においては、研究テーマを「学ぶ楽しさを生徒に実感させる古典の指導の工夫」として、生徒が抱く苦手意識を緩和し、古典に対する興味・関心を高めるための指導について研究・検討を重ねてきた。

本研究における「学ぶ楽しさを生徒に実感させる古典の授業」は、「展開に特別な工夫を凝らした『非日常の授業』」の枠組みにおいてではなく、「日常の授業」の枠組みにおいて考えた。普段の指導の改善を図ることこそが、上述の古典学習を取り巻く現状の改善につながると考えたからである。また、「学ぶ楽しさ」に関しては、例えば、「その授業がたまたま楽しかった」などというような、授業に対するその場限りの感情に根差した「楽しさ」ではなく、学習内容に対して納得をもって理解したことなどに根差した「楽しさ」を感じさせることが、高等学校という発達段階に相応する「学ぶ楽しさ」になるのではないかと考えた。

このようなことから、本研究では「学ぶ楽しさを生徒に実感させる授業」を次のように構想した。

---

※1 第5章（2）を参照。

- 学ぶ楽しさを生徒が感じることができるよう、授業の中に次のような学習場面を設ける
  - ・ 生徒が学習内容に対して納得をもって理解することができる学習場面
  - ・ 生徒が「学んできた知識を生かした」などというような実感をもつことができる学習場面

#### 【授業の展開に関する留意事項】

- ・ 言語活動を通して、各科目における指導事項を指導すること
- ・ 近代以降の文章を扱うのと同様に、表現の仕方に注意したり、要約や詳述をしたり、想像力をはたらかせたりしながら読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしていくような展開を心がけること（語句の意味の理解や文の現代語訳といった、「文章の表面的な意味をとらえる学習」だけで終わらせないこと）

#### 【教材に関する留意事項】

- ・ 生徒の実態や指導のねらいに応じては、現代語訳なども適切に利用すること

このような考えの下、研究協力委員が勤務校で担当する各科目において、学ぶ楽しさを生徒に実感させる古典の指導を目指して授業実践を行った。各事例は現行の学習指導要領の各科目における実践であるが、新学習指導要領の「国語総合」、「古典A」、「古典B」における指導事項や言語活動例、及び新学習指導要領に対応した評価の考え方を踏まえたものである。

#### 事例1 「うつくし」「らうたし」を手掛かりにして文章を読み味わう

この実践では、言葉について掘り下げて考える学習活動を行い、そこで調べた言葉を切り口にして文章を読み味わわせることを目指した。「国語総合」を想定した事例である。

授業においては、学習内容に対して納得をもって理解させることで、生徒が学ぶ楽しさを感じられるようにした。学習内容に対して納得をもって理解させるため、授業の中に、「調べ学習」、「調べた語句を用いての短文作り」という学習場面を設けた。

#### 事例2 複数の場面を読むことを通して登場人物の心情を考察する

この実践では、複数の場面を読み進めていく学習活動を通して、登場人物の心情を多角的な視点から考察させることを目指した。「古典A」を想定した事例である。

授業においては、学んできた知識を生かしたと実感させることで、生徒が学ぶ楽しさを感じられるようにした。学んできた知識を生かしたという実感をもたせるため、授業では、既習作品（『大鏡』）の学習を通して得た知識や自らの文法知識などを意識させながら読解を進めていくようにした。

### 事例3 内容に即して筆者の心情や人物像を考えながら読む

この実践では、本文を丁寧に読みとくための学習活動を通して、筆者の心情や人物像を考えながら読ませることを目指した。「古典B」を想定した事例である。

授業においては、学習内容に対して納得をもって理解させることで、生徒が学ぶ楽しさを感じられるようにした。学習内容に対して納得をもって理解させるため、授業の中に、現代語訳をするだけであると、おそらく生徒が見過ごしてしまうような部分を、ワークシートでの作業やグループでの話し合いによって丁寧に読みといていく学習場面を設けた。

次章に示した各事例において、単元全体の流れは「2（5）指導と評価の計画」に記したが、今回は、1単位時間ごとの指導計画を示さず、学習のまとめりとしての「次」で示してある。これは、「次」で示すことにより、身に付けさせたい力を育成するための学習のまとめりが把握しやすくなることや、学校や生徒の実態に応じて、それぞれの「次」に要する指導時数は適切に考える必要があること、などの理由による。

なお、各事例における「3 授業の様子」では、事例実践校においてそれぞれの「次」にどれくらいの時間をかけて展開したのかが分かるようにした。

## 事例 1

# 「うつくし」「らうたし」を手掛かりにして文章を読み味わう

## 1 ねらい

新学習指導要領の「国語総合」の指導事項「C 読むこと」の「(1) ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。」を指導の中心に取り上げる。「古典B」の言語活動例の「ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。」を参考にして設定した、「現代語で『かわいい』を意味する五つの古語の用いられ方の違いを辞書で調べ、それぞれの言葉の意味に合った現代語の短文をグループで話し合っ作る」という言語活動を通して、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうための言語能力を育成する。

この実践では、学習内容に対して納得をもって理解させることで、生徒が学ぶ楽しさを感じられるようにした。学習内容に対して納得をもって理解させるため、授業の中に、「調べ学習」、「調べた語句を用いての短文作り」という学習場面を設けた。

## 2 学習活動の概要

(1) 単元名 随筆 『枕草子』－「うつくしきもの」－

### (2) 単元の目標

- ①文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。  
(関心・意欲・態度)
- ②文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。  
(読む能力)
- ③国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解する。  
(知識・理解)

### (3) 取り入れる言語活動

現代語で「かわいい」を意味する五つの古語の用いられ方の違いを辞書で調べ、それぞれの言葉の意味に合った現代語の短文をグループで話し合っ作る。

### (4) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
「うつくし」「らうたし」という古語に着目し、文章に描かれた情景・心情を表現に即して読み味わおうとしている。	「うつくし」「らうたし」という古語に着目し、文章に描かれた情景・心情を表現に即して読み味わっている。	「うつくし」「らうたし」という古語の語義や意味を理解している。

(5) 指導と評価の計画 (全4次)

次	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>● 読解のための準備をする</p> <p>(1) 「かわいい」と思うもの(動作を含む)について簡条書きし、書き出したものに共通する事柄をまとめる。 (ワークシート①(資料1))</p> <p>(2) 『枕草子』の成立、内容についてまとめる。</p> <p>(3) 類聚的章段についての特色をまとめる。</p>	<p>○なるべく具体的に書くよう指示する。</p> <p>○(2)、(3)は簡潔に行う。</p>	
2	<p>● 「うつくしきもの」本文を読解する</p> <p>(1) 「うつくしきもの」本文を音読する。</p> <p>(2) 本文を音読した後、現代語訳プリントを用いて本文の内容を読み取る。</p> <p>(3) 筆者が「うつくしきもの」として本文に取り上げているものの共通点をとらえる。</p>	<p>○単語の区切りに注意させる。</p> <p>○本文と現代語訳を対応させ、本文の内容を読み取らせる。</p> <p>○必要に応じて古語の意味を辞書で確認させる。</p> <p>○訳は同じであっても、本文に用いられている古語が異なることに気付かせる。</p> <p>○「何も何も、小さきものは、みなうつくし。」の一文に気付かせる。</p>	<p>読む能力 [行動の観察]</p>
3	<p>● 「うつくし」「らうたし」を含む五つの古語の語義を調べ、ワークシート②(資料2)にまとめる</p> <p>(1) 辞書で五つの古語について語義を調べる。(個別)</p> <p>(2) 調べた古語を用いて現代語で短文を作り、発表する。 (個別→グループ)</p> <p>(3) 現在用いられている「かわいい」という感覚に一番近い古語を選ぶ。</p>	<p>○机間指導を行いながら適宜助言する。</p> <p>○短文はまずは個別で作らせる。その後、グループ内で発表させる。グループで各自の短文の適否を検討し、グループとして全体に発表する短文を1文以上作らせる。</p> <p>○短文は現代語で作成するが、五つの古語はそのまま文中に取り入れさせる。</p>	<p>知識・理解 [行動の観察、ワークシート②] の記述の確認]</p>
4	<p>● 筆者がなぜ「うつくし」「らうたし」という古語を用いたのかを考える</p> <p>(1) 本文で、「をかしげなるちごの、～かいつきて寝たる」の箇所だけに「らうたし」が使われていたのはなぜかを考える。</p> <p>(2) ワークシート①(資料1)と「うつくしきもの」本文の内容を比較し、昔と現代における「かわいい」という感覚について気付いたこと話し合う。</p>		<p>読む能力 [ワークシート②]の記述の確認]</p> <p>関心・意欲・態度 [行動の観察、ワークシート①・ワークシート②・「授業後の生徒の感想」の記述の分析]</p>

### 3 授業の様子

#### 【第1次】読解のための準備をする。

ここは単元の導入として1時間をかけて展開した。

ワークシート①（資料1）に「かわいい」と思うもの（動作を含む）について箇条書きさせる際は、なかなか書けない生徒もいたので、書けている生徒の中から2、3人を選んで発表させた。その後、もう一度書く時間をとったところ、ほとんどの生徒が書くことができた。

また、『枕草子』の成立や類聚的章段についての特色などについても簡単に整理した。

#### 【第2次】「うつくしきもの」本文を読解する。

ここは1時間をかけて展開した。

現代語訳を対応させながら本文の内容を読み取る際には、必要に応じて古語の意味を辞書で確認させた。一通り内容を整理した後に、「本文で筆者が『うつくし』と感じているものの共通点が示されている一文はどこか。」と質問したところ、生徒は現代語訳を参考にして「何も何も、小さきものは、みなうつくし。」の箇所を挙げることができた。

#### 【第3次】「うつくし」「らうたし」を含む五つの古語の語義を調べ、ワークシートにまとめる。

ここは約1時間をかけて展開した。

この單元では、「うつくし」「らうたし」という古語を切り口にして文章を読み味わうことを目指しているが、そのためには、これらの古語の用いられ方の微妙な違いを生徒に把握させる必要があった。そのため、第3次ではそれぞれの古語の語義を辞書で調べさせるところから授業に入った。辞書の種類によって見るべき箇所が異なるので、机間指導を行いながら生徒に適宜助言した。ワークシート②（資料2）の□には、現代語で「かわいい」という意味をもつ古語の中から、生徒が持っている古語辞典で調べることができると思われる古語を五つ取り上げた。個別に調べさせ、語義が載っていない辞書を使用している生徒には、辞書の例文を写すよう指示した。その後、語義を調べることができた生徒を指名してそれぞれの語義を板書させ、生徒の全員に確認させた。

次に、ワークシート②（資料2）の□の作業へと進んだ。ここでは、□で調べた古語の用いられ方の違いを意識させるために、古語をそのまま取り入れて現代語で短文を作るよう指示した。短文を作らせる際には、古語辞典だけではなく国語辞典の例文も参考にするようアドバイスした。最初は個別に作らせ、その後でグループになり、互いの例文の適否を確認させた。生徒は互いの短文を見て、感心したり自分の作ったものを手直ししたりしていた。その後、各グループごとに短文を発表させた。

最後に、ワークシート②（資料2）の□の問いについて考えさせた。□ではほとんどの生徒が「うつくし」を選んでいった。

#### 【第4次】筆者がなぜ「うつくし」「らうたし」という古語を用いたのかを考える。

ここは約1時間をかけて展開した。

まず、「うつくし」はどのような場合に用いられているのかを質問したところ、生徒からは、「かわいいものを見たとき」や「小さなものを見たとき」などの答えが返ってきた。

次に、ワークシート②（資料2）の□の問いについて考えさせた。生徒からは、「見るだけではなく、赤ちゃんを自分で抱っこしてかわいいと感じたから。」や「抱っこした赤ちゃんが自分にしがみついて寝ている様子を見て、守ってあげたいと感じたから。」などという答えが返ってきた。

そこで、「うつくし」と「らうたし」はどのように使い分けられているのかを質問したところ、「何かを見て『かわいい』と感じたときには『うつくし』で、自分でそのものに触ったり何かをしたりして『小さくて弱いから守ってあげたい、大切に扱ってあげたい』と感じたときには『らうたし』が使われている。」という答えが返ってきた。

最後に、第1次に記入させたワークシート①（資料1）を生徒に返却し、本文の内容と自分が挙げた「かわいい」と思うものを比較させ、昔と現代における「かわいい」という感覚について気付いたことを話し合わせた。

#### 【授業後の生徒の感想】

- ・ 昔の人の感覚でも共感できる部分は沢山あった。古語は難しいけれど学習していて楽しい。今回のように、現代と比べて考えることはいいことだと思った。
- ・ いつの時代でもかわいいものは同じなんだなと思いました。平安時代は今から見ると遠い昔なのに『うつくしもの』を読んで現代との共通点を見つけられたので、時代の距離が近づいたような気がしました。
- ・ 昔から今まで受け継がれている言葉を学ぶと昔の人とつながっている感じがする。
- ・ 清少納言の書いた別の文章も読んでみたい。
- ・ 昔使われていた「かわいい」という言葉はたくさんあり、使い方がそれぞれ違うのだと分かった。

「授業後の生徒の感想」からは、学習を通して「うつくし」「らうたし」という語句について納得をもって理解したことで、学習の楽しさを感じた生徒（波線）や、古典世界を身近なものとしてとらえ直した生徒（二重波線）がいたことが分かる。また、授業を通して古典作品への興味をもった生徒（破線）がいたことも分かる。

#### 4 評価の例

読む能力の評価は主として第2次と第4次に行った。

このうち、第2次の評価は、第4次の学習活動の前提として、「生徒が文章の内容を大雑把に把握できているかどうか」を探るために行った。具体的には、「筆者が『うつくしきもの』として本文に取り上げているものの共通点をとらえる」学習場面において、「何も何も、小さきものはみなうつくし。」の一文を指摘できるかどうかを、観察することで評価した。「何も何も、小さきものはみなうつくし。」の一文を指摘できている生徒を「おおむね満足できる」状況（B）とした。現代語訳と本文を見比べさせることで、すべての生徒がこの一文に気付くことができた。

第4次の評価は、この単元における読む能力の主とする評価として行った。具体的には、授業後にワークシート②（資料2）の④の記述を確認することで評価した。「うつくし」と「らうたし」の違いについて把握したことを基にして、「をかしげなるちごの、～かいつきて寝たる」の箇所だけに「らうたし」が使われていた理由を説明できているものを「おおむね満足できる」状況（B）とした。ワークシート②記入例（資料2）は「おおむね満足できる」状況（B）と見なすことのできる例である。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、ワークシート②の①、②で記述した内容を基にして「うつくし」「らうたし」の語句のイメージを考えさせたり、「をかしげなるちごの、～かいつきて寝たる」における「ちご」の様子を考えさせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

知識・理解の評価は主として第3次に行った。授業時の学習の様子を観察や、授業後にワークシート②（資料2）の①～③の記述を確認することで評価した。すべての古語の語義などが調べてあり、かつ、「うつくし」「らうたし」の語義に合った適切な短文が書けているものを「おおむね満足でき

る」状況（B）とした。ワークシート②記入例（**資料2**）はすべての古語の語義が調べてあることに加え、五つの古語すべてについて語義に合った適切な短文が書けていることから、事例実践校においては「おおむね満足できる」状況（B）の中でも優れたものであると判断し、「十分満足できる」状況（A）と見なした。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、語句を調べるに当たって、その生徒の持っている辞書ではどこの項目を見ればよいのかを指導したり、別の生徒が持っている辞書を参考にさせたり、どのような短文にすればいいのかを同じグループの生徒と話し合わせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

関心・意欲・態度の評価は主として第4次に行った。昔と現代における「かわいい」という感覚について気付いたことを話し合わせた授業時の様子を観察したり、授業後にワークシート①（**資料1**）、ワークシート②（**資料2**）、「授業後の生徒の感想」の記述を分析したりすることで評価した。自身のワークシートと本文とを比較して気付いたことをまとめようとしているものを「おおむね満足できる」状況（B）とした。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、現代の言葉と古語との共通点や相違点を考えさせたり、他の生徒の意見を参考にさせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

## 5 成果と課題

### （1）成果

本事例の成果としては、次のようなことが挙げられる。

#### ア 本文（「うつくしきもの」）にある「うつくし」「らうたし」という語句について、生徒が納得をもって理解する場を作ることができたこと

今回の授業では、現代語訳を配布することにより、同じ訳でも本文に用いられている古語が違うということの発見につながった。その発見を手掛かりにして、辞書での調べ学習や古語を用いて短文を作る学習、さらには本文の読解へとつなげた。「授業後の生徒の感想」からは、生徒が、本文にある「うつくし」「らうたし」という語句について、納得をもって理解することができたことが分かる。

本実践では、辞書で調べる学習場面や古語を用いて短文を作る学習場面を設けたことで、生徒が納得をもって理解する場を作ることができたものと思われる。

#### イ 調べ学習の中で生徒同士による学び合いが行われていたこと

グループ学習の場面では、生徒は互いの短文を見て、感心したり自分の作ったものを手直ししたりしていた。グループ学習という、生徒同士の間で互いにアドバイスし合えるような学習形態を取り入れることにより、生徒同士が互いに意見を交わし、学び合う姿が見られた。

### （2）課題

課題としては、次のようなことが挙げられる。

#### ア 調べ学習を行う際の、授業の進め方の工夫

今回の授業では、「調べるための道具」を生徒各自の古語辞典とし、授業に持参させた。生徒が持っている古語辞典は様々な出版社によるものであったために、グループ学習による学び合いは効果的なものとなった。

しかし、調べ学習においては、「調べるための道具」を、生徒が常に自前で用意できるとは限らない。「調べるための道具」を選択する幅を広げるためにも、学校図書館との連携や情報機器の活用などを視野に入れて、調べ学習を行う際の授業の進め方を工夫する必

要がある。

#### イ 古典に対する興味・関心を持続させる工夫

今回の授業を通して、生徒は、学習する内容が自分たちにとって身近なものと感じると、興味・関心を抱くようであることが分かった。古典作品に描かれている登場人物の考え方や心情を自分自身に引き付けて考えさせたり、古典の世界における習慣や年中行事などが、現在の自分の生活にもつながっていることを意識させたりするなどして、古典に対する生徒の興味・関心を持続させる工夫が必要である。

#### 使用教科書

『改訂版高等学校標準古典』第一学習社



『枕草子』『うつくしきもの』学習プリント

(組) (番氏名)

□ 次の①～⑥の古語(形容詞)は全て「かわいい」という意味を表す。どのよう  
なときに用いられていたのか古語辞典で調べてみよう。

① 「いとほし」	
② 「かなし」	
③ 「らうたし」	
④ 「うつくし」	
⑤ 「をかし」	

□ ①～⑥の古語について、現代においてはどのように用いることがあ  
るか。清少納言になったつもりで具体例を作ってみよう。

(例) 「うつくしきもの。テディーベアのストラップ。」など

① 「いとほし」	
② 「かなし」	
③ 「らうたし」	
④ 「うつくし」	
⑤ 「をかし」	

□ □で調べた古語の中で自分たちが使う「かわいい」という表現の用い方に  
近い古語はどれか。  
↓

□ 「本文」をかしげなるちこの、あからさまに抱きて遊ばしうつくしむほど  
にかいつきて寝たるいとらうたし。」の箇所「らうたし」が用いられて  
いるのはなぜか。考えてみよう。


『枕草子』の「うつくしきもの」学習プリント

□ 次の①～⑤の古語(形容詞)は全て「かわいい」という意味を表す。どのよう  
なときに用いられていたのが古語辞典で調べてみよう。

① 「いとほし」	弱い者に対する同情の気持ち
② 「かなし」	人事に對しては情愛が痛切で胸がつかまる感じ、 自然に對しては深く心を打たれる感じを表す
③ 「らうたし」	「をかしげなる思ひあはらうまにいたまへ遊ばし」 「うつくしむほどにかいこもて寝たる、いとらうたし」 「いたまへやりたいような気持ちにからかすに情 父母を見れば尊し妻子見ればめくし」
④ 「うつくし」	「うつくし」 「小さいものをかわいいと見る意」
⑤ 「をかし」	「命つぎばかりとするは、前のせりの報いが、 このせりをかしかと」 「知的な感性を明るく郎らかな感情・情趣を表した語」

(組) (番氏名)

1

□ ①～⑤の古語について、現代においてはそのように用いることができる  
か。清少納言になつたつもりで具体例を作ってみよう。

(例) 「うつくしきもの。ティーンズのストラップ。」など

① 「いとほし」	捨てた猫をいとはしく思つた。
② 「かなし」	雨にも風にもまげず必死に成長するがはしませ
③ 「らうたし」	食べ物を一生懸命はこんでいる蟻をうたしたし。
④ 「うつくし」	「うつくしきもの。アリスを遊ばせる時。」
⑤ 「をかし」	蝶を追いかけている子どもををかし。

□ で調べた古語の中で自分たちが使う「かわいい」という表現の用い方に  
近い古語はどれか。  
↓ 「うつくし」

□ 「本文」をかきしげなる古語の、あからさまに抱きかかして遊ばせたりしては  
ない、かいつきて寝たるといふことだ。この箇所は「うつくし」が用いられて  
いるのはなぜか。考えてみよう。

見えだりではなく、赤ちゃんを自分だけ抱きかかして
かわいいと感じたから。

## 事例 2

# 複数の場面を読むことを通して登場人物の心情を考察する

### 1 ねらい

新学習指導要領の「古典A」の指導事項「(1) ア 古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察すること。」を指導の中心に取り上げる。「古典A」の言語活動例の「ウ 図書館を利用して古典などを読み比べ、そこに描かれた人物、情景、心情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり話し合ったりすること。」を参考にして設定した、「複数の場面を読み比べ、そこに描かれた登場人物の心情を話し合う」という言語活動を通して、古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察するための言語能力を育成する。

この実践では、学んできた知識を生かせたと実感させることで、生徒が学ぶ楽しさを感じられるようにした。学んできた知識を生かせたと実感をもたせるため、授業では、既習作品(『大鏡』)の学習を通して得た知識や自らの文法知識などを意識させながら読解を進めていくようにした。

### 2 学習活動の概要

(1) 単元名 『蜻蛉日記』－「うつろひたる菊」「泔坏の水」－

#### (2) 単元の目標

- ① 古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察しようとする。  
(関心・意欲・態度)
- ② 古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。  
(読む能力)
- ③ 古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりする。  
(知識・理解)

#### (3) 取り入れる言語活動

複数の場面を読み比べ、そこに描かれた登場人物の心情を話し合う。

#### (4) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
本文に表れた思想や感情を読み取り、作者や登場人物の心情について多角的な視点から考察しようとしている。	本文に表れた思想や感情を読み取り、作者や登場人物の心情について多角的な視点から考察している。	本文中の和歌を、現代の言葉に即して理解している。

(5) 指導と評価の計画 (全3次)

次	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>●平安時代における貴族の結婚形態についての理解を深めるとともに、教科書掲載箇所までの作品の流れをつかむ</p> <p>(1)平安時代の貴族の結婚形態について確認し、<b>ワークシート①</b> (<b>資料1</b>) にまとめる。</p> <p>(2)作者と藤原兼家について確認する。</p> <p>(3)『蜻蛉日記』についての理解を深める。</p> <p>(4)作者と兼家が結婚するまでの経緯を知る。</p>	<p>○国語便覧等も活用させる。</p> <p>○既習の歴史物語『大鏡』におけるエピソードから兼家の印象を挙げさせる。</p> <p>○作者と兼家の年齢等の確認のため、<b>プリント</b> (<b>資料2</b>) を配布し、記入させる。</p> <p>○便覧等を使用し、平安時代の女流日記文学としてのこの作品の文学的意義を考えさせる。</p> <p>○プリントを配布し、兼家が積極的に求婚してきたことを意識させる。</p>	
2	<p>●「うつろひたる菊」の本文を読解する</p> <p>(1)音読・解釈をする。</p> <p>(2)3首の和歌を、自分たちが日常的に使っている言葉で置き換え、<b>ワークシート②</b> (<b>資料3</b>) にまとめる。(グループ)</p> <p>(3)各グループの和歌の解釈を読み合い、理解を深める。</p> <hr/> <p>●「泪坏の水」の本文を読解する</p> <p>(1)音読・解釈をする。</p>	<p>○読解に必要な文法等を適宜確認しながら読ませる。</p> <p>○敬語がほとんどないため、主語の把握に留意させる。</p> <p>○散文の部分が和歌の詠まれる経緯を説明していることに気付かせる。</p> <p>○歌の詠み手の心情に留意させる。</p> <p>○グループごとに発表させ、全体で確認させる。</p> <hr/> <p>○解釈の留意点は「うつろひたる菊」と同じ。</p>	<p>読む能力 〔行動の観察〕</p> <p>知識・理解 〔<b>ワークシート②</b>の記述の確認〕</p> <p>読む能力 〔行動の観察〕</p>
3	<p>●兼家の作者に対する気持ちを考える</p> <p>(1)この単元で読んできた『蜻蛉日記』の複数の場面を通して、兼家の作者に対する気持ちをグループで考え、<b>ワークシート③</b> (<b>資料4</b>) に記入する。</p>	<p>○本作品は女性の視点から書かれたものではあるが、夫である兼家の言い分も考えさせるようにする。兼家の気持ちを自分に引き寄せて考えさせる。</p>	<p>関心・意欲・態度 〔<b>ワークシート③</b>の記述の分析〕</p>

### 3 授業の様子

【第1次】平安時代における貴族の結婚形態についての理解を深めるとともに、教科書掲載箇所までの作品の流れをつかむ。

ここは1時間をかけて展開した。

本文を読んでいくための準備として、まず、生徒から、当時の貴族の結婚形態や既習作品である『大鏡』での藤原兼家のエピソードとして知っていることを挙げさせた。また、教科書掲載箇所までの作品の流れを把握させるために、『ビギナーズ・クラシックス 蜻蛉日記』（角川書店）を参考にして、兼家と作者が結婚するまでの経緯の場面を現代語訳した資料を作成し、配布して読ませた。

【第2次】「うつろひたる菊」「泪坏の水」の本文を読解する。

ここは約3.5時間をかけて展開した。

「作品世界に関して知っていること」として第1次に生徒から挙げられた事項も意識させながら本文を読み進めていく中で、登場人物の心情を考えさせた。また、散文の部分が和歌の詠まれる経緯の説明であることに気付かせるようにした。

和歌を自分たちが日常的に使っている言葉で置き換えるというグループ作業を入れたのは、和歌の内容を自分たちの実感としてとらえさせるためであった。しかし、生徒から提出されたワークシート②（資料3）を見ると、これはなかなか難しかったようである。「嘆きつつ〜」の歌は小倉百人一首にも採られていて、生徒には馴染みがあったことが逆に解釈の自由度を狭めたのか、既成の解釈にとられる傾向があり、独創的な言葉遣いによる解釈は出てこなかった。授業後の生徒の感想でも、普段の言葉遣いで和歌を解釈するのは難しかったと書かれているものが見られた。作業がうまく進まないグループについては、第1次で使用した「作者と兼家が結婚するまでの経緯の場面を現代語訳した資料」を活用するよう指示したところ、それを参考にしながら自分たちなりの表現をしようと努めていた。グループでの話し合いを通して、3首の歌に対する理解そのものは深まったと思われる。

次に挙げるのは、「うつろひたる菊」に出てくる3首の和歌を、各グループが自分たちの普段の言葉遣いで置き換えた例である。

● うたがはしほかに渡せるふみ見ればここやとだえにならんとすらむ

- ・ 他の女に渡すつもりの手紙を見ちゃったんだけど、もう私のところにはきてくれないの。
- ・ あやしいな、これ。他の女に手紙を送っちゃってるけど、まずいねえ。もう私の所に来てくれないのかな。
- ・ あやしいな。浮気相手にあげる手紙を見ると、私のところに来なくなって私は捨てられるのね。

● 嘆きつつひとり寝る夜のある間はいかに久しきものとかは知る

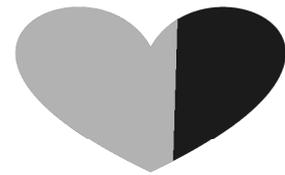
- ・ 悲しみながら、ひとりで寝る夜の間はどれほど長い間であるかと…。
- ・ 私が兼家様の来ない夜をこんなに悲しんでひとりで朝になるまで待っているのに、どうしてあなたは分かってくれないの。早く帰ってきて。
- ・ 悲しくてひとりで寝ている夜が明けていくまでの時間がどれだけ長いかわからないでしょうね。
- ・ 兼家様がいなくて、すごく淋しくて、毎日が遅く感じることも、なんにも分かっていないのね。

● げにやげに冬の夜ならぬまきの戸を遅くあくるはわびしかりけり

- ・ 本当に冬の夜は長くて寒くて、待っているのはとてもつらいよ。早く扉を開けてほしいな。
- ・ 本当に、冬の夜は長いから外で待っているのはつらいけれど、あなたが戸を開けてくれないのも同じくらいにつらいんだよ。
- ・ 冬の夜中みたいに長時間君の家の前で待っているのは本当につらいよ。

「うたがはし」の歌においては、作者が兼家の心中をどのように推し量っているのかを考えさせた。具体的には、兼家の心中を模式的にハートで示し、作者が、兼家の気持ちは自分と他の女（兼家が文を書いた女）のどちらにあると思っているのかを、色で塗り分けさせた。すると、生徒のほとんどが右の図①のように塗り分け、「兼家の心は、作者に対する気持ちより、他の女に対する気持ちの方が強まっている状態にある」と考えていた。そこで、図②と比較させ、なぜ自分が図②のように考えなかったのを生徒に説明させた。生徒からは「図②だと、作者は、兼家がすっかり心変わりしたと思っていることになる。この歌では、作者は、兼家が今現在心変わりしつつある状態だと思っている。」という答えが返ってきた。なぜそのように考えたのかをさらに聞くと、「助動詞『らむ』があるから。」という答えが返ってきた。そこで、助動詞「らむ」の働き（現在推量）について簡単に復習した。

図① 生徒の色分けの例



〔淡色→他の女への気持ち  
濃色→作者への気持ち〕

図② 比較させた例



〔淡色（他の女への気持ち）  
のみになっている状態〕

また、「嘆きつつ」の歌では、ほぼすべてのグループが、前頁の囲みにあるように、「いかに久しきものとかは知る」の部分で「あなたは分かってくれないのね」と訳していたため、なぜ「かは」を反語で解釈したのかを説明させた。生徒からは、「この場面では、作者の心中としては兼家を咎める気持ちが強いため、反語の解釈の方が合うと思った。」という答えが返ってきた。そこで、反語の働きについても簡単に復習した。

和歌を自分たちが日常的に使っている言葉で置き換える場面では、このようなやりとりを通して「自分の解釈はこれまでに学習してきた文法知識に支えられているのだ」と気付かせることで、「学んできた知識は読むことに生かせるのだ」と生徒が実感できるように務めた。

### 【第3次】兼家の作者に対する気持ちを考える。

「兼家が作者をどのように思っていたか」について、グループで約0.5時間程度で話し合った。

話し合いには生徒それぞれの価値観が表われており、興味深かった。「兼家が作者をどのように思っていたか」については、次のような意見が出された。

- ・ 一夫多妻制だから兼家にとって作者は複数いる妻の中のひとりなので、作者が兼家を思っている程には考えていないのではないか。
- ・ 何回も求婚したが、手に入れたことで作者に対しての愛情が冷めてしまった(飽きた)ように思った。
- ・ 作者は和歌の才能があるが、嫉妬深く何かと疑ってくるから面倒だと思っている。
- ・ 他の女のところへ行っても、結果的に作者のところを訪れていたのだから、言い合いをしても彼女のことを思っていたのではないか。

作者の立場を中心に置いて読解を進めていたとしたら、兼家を過度に非難するような見解も出てきたと思われるが、今回は単元の冒頭で、生徒から平安貴族の結婚形態や『大鏡』における兼家のエピソードとして自分が知っていることを挙げさせ、それらを意識させながら教科書掲載箇所までの場面、「うつろひたる菊」、「汧坏の水」という複数の場面を通して考えさせたことで、生徒は感情的にならず、多角的な視点を基に作品内容を理解することができた。「作者にとっては夫は一人だが、当時の貴族の男性、特に兼家のように権力を持った者からすると今回の行動は当然のものだ。」といった生徒の

発言も得られた。平安貴族の結婚形態や『大鏡』における兼家のエピソードなどに関する生徒の既習知識は、登場人物の心情について考察する際の視野を広げるのに有効であったと思われる。

グループでの話し合いは、生徒が疑問点などを遠慮なく話し合う機会となり、受け身になりがちな雰囲気改善することができた。自ら考える姿勢の重要性を再認識させられたのではないかと思われる。しかし、若干ではあるが、話し合いに参加できず、聞き役に回っているだけの生徒もいた。例えば、グループ内での役割分担を工夫させるなどといった、全員を話し合いに参加させる工夫の必要性も感じた。

#### 【授業後の生徒の感想】

- ・ 和歌が入る作品は心情がよく分かるので楽しく感じた。
- ・ 古文ではあったが、どこか遠い話に感じず、現代に置き換えられると思った。
- ・ 現代の女性は男性と対等になったが、この時代の女性は毎日、夫のことで心を悩ませてすごさなければならず、想像すると怖くなる。
- ・ 自分だけの視点から、自分の都合のよいことしか書かない日記は怖いものだと思う。
- ・ 作者はプライドの高い人物であったから、兼家が他の女性のところへ通うことを知り、辛くなってしまったのだろう。
- ・ 後世にまで残る作品となったこの日記を書いた作者は、相当気が強かったと思う。
- ・ 『蜻蛉日記』は読みやすく、内容の理解が容易であった。

「授業後の生徒の感想」からは、和歌が入った作品の学習に楽しさを感じた生徒（波線）や、作品世界を自分に引き付けて考えた生徒（二重波線）がいたことが分かる。

また、作品に対する評価（実線）を書いてきた生徒もいた。これは、作品を解釈する視野が既習知識によって広げられたことから引き出された気付きであると思われる。このような気付きは、古典のもつ価値への気付きにもつながり、そこから古典に対する興味・関心が生まれることも期待できる。

#### 4 評価の例

読む能力の評価は、「うつろひたる菊」、「泔坏の水」を読み進めていく第2次に行った。文章を読解する学習場面において、文脈の流れをとらえた上で作者や登場人物の心情を考えられるかどうかを、生徒の発言や授業の様子を観察することで評価した。文脈の流れをとらえた上で作者や登場人物の心情を考えられている生徒を「おおむね満足できる」状況（B）とした。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、他の生徒の意見を参考にさせながら前後の文脈から推測させたり、読解のポイントとなる文法事項等に気付かせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

知識・理解の評価は、主として第2次の「3首の和歌を自分たちが日常に使っている言葉で置き換える学習場面」を対象とし、授業後にワークシート②（資料3）の記述を確認することで評価した。自分たちの普段の言葉遣いで和歌の内容を表現できているものを「おおむね満足できる」状況（B）とした。ワークシート②記入例（資料3）は、自分たちの普段の言葉遣いで和歌の内容を表現できていることに加え、「ここやとだえにならんとすらむ」や「いかに久しきものとかは知る」の部分に、詠み手の心情を汲み取った説明を加えるという工夫をしていることから、事例実践校においては「おおむね満足できる」状況（B）の中でも優れたものであると判断し、「十分満足できる」状況（A）と見なした。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、第1次で使用した「作者と兼家が結婚するまでの経緯の場面を現代語訳した資料」を活用させたり、和歌中の表現を自分たちの普段の言葉遣いに置きかえるとどのようになるのかをグループで話し合わせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

関心・意欲・態度の評価は、主として第3次の授業後に、ワークシート③（資料4）の記述を分析

することで評価した。兼家の作者に対する気持ちを多角的な視点から考察しようとしているものを「おおむね満足できる」状況（B）とした。ワークシート③記入例（資料4）は「おおむね満足できる」状況（B）と見なすことのできる例である。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、第1次で使った資料や本文を再度読みなおさせたり、他の生徒の意見を参考にさせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

## 5 成果と課題

### （1）成果

本事例の成果としては、次のようなことが挙げられる。

**ア 生徒がもっている既習の知識（古典作品の背景にある当時の文化や習慣に関する知識、既習作品に関する知識、文法に関する知識など）を文章の読みに生かす場を作ることができたこと**

本実践では、本文の読解に入る前に、生徒から平安貴族の結婚形態や『大鏡』における兼家のエピソードについて自分が知っていること（学んできたこと）を挙げさせ、それらの事柄を意識させながら作品の読解を進めるようにした。また、和歌を扱う場面においては、自分の解釈がなぜそのようになったのかを教師とのやりとりを通して考えさせる中で、自身が学んできた文法知識を使わせるように仕向けた。

生徒がもっている既習の知識を文章の読みに生かす場を、授業の中に設けるようにすることで、生徒は「自分が学んできた知識が役に立った」という意識を強めていき、そこから、古典を学ぶ楽しさが生まれることが期待できる。

**イ 話し合いによる言語活動を通して学び合いができたこと**

和歌の解釈は容易ではないが、グループで意見を出し合う中で、拙いながらも形を整えることができた。一人ではできないことも、グループで取り組むことで一つの形を作り出すことができ、学習に対する意欲の向上にもつながったと思われる。また、心情を話し合う場面でも、どのように言葉で表現するかをグループの中で意見交換することができた。生徒は学び合いの意義を感じていたようである。

### （2）課題

課題としては、次のようなことが挙げられる。

**ア 授業中の各作業や言語活動を行う目的を明確に生徒に示すこと**

生徒の主体性を引き出し、自ら読むことを促すために、本実践では話し合う活動を取り入れた。しかし、話し合いにおいては、まれに教師の意図しない解答が出てくる可能性もあり、その場合の対応を柔軟にしていかなければならない。生徒たちは古典読解のための知識も多くはないので、感覚的に考えてしまう傾向もある。授業中の各作業や言語活動が何を目的としているのかを、生徒に丁寧に示す必要がある。

**イ 学ぶ意欲を高める工夫**

読んで分かるということは生徒の学ぶ意欲を高める上で重要なポイントである。分らせる（理解させる）ためには、授業の展開を入念に計画することが大切である。生徒の学ぶ意欲を喚起するため、生徒の実態に応じた適切な指導の工夫の必要性を痛感した。

使用教科書 ・『改訂版高等学校古典 古文編』第一学習社

参考文献 ・『ビギナーズ・クラシックス 蜻蛉日記』角川書店

蜻蛉日記  
藤原道綱母

年 組 氏名

蜻蛉日記 1

○平安時代の貴族の結婚形態について知っていることを書こう。

★平安時代の結婚形態で、夫婦関係をうまく築くにはどうしたら良いか。男女のそれぞれの立場から考えてみよう。

○『蜻蛉日記』の作者は藤原兼家と結婚している。兼家は既習の歴史物語『大鏡』に登場したが、どのようなエピソードがあったか。また、どのような印象が残っているか。

○『蜻蛉日記』について

★便覧等を使い、どのような作品かを知ろう。

・作者 ……

・成立 ……

・内容等 ……

蜻蛉日記  
藤原道綱母

年 組

蜻蛉日記 1

○平安時代の貴族の結婚形態について知っていることを書こう。

★平安時代の結婚形態で、夫婦関係をうまく築くにはどうしたら良いか。男女のそれぞれの立場から考えてみよう。

○『蜻蛉日記』の作者は藤原兼家と結婚している。兼家は既習の歴史物語『大鏡』に登場したが、どのようなエピソードがあったか。また、どのような印象が残っているか。

兄弟の仲が悪い。

○『蜻蛉日記』について

★便覧等を使い、どのような作品かを知ろう。

・作者 ……藤原道綱母

・成立 ……九七四年頃

・内容等……最初の女流日記文学  
九五四〜九七四年の二十一年間についての記述

「顔を見よ」ということ「結婚」  
「一夫多妻制」

○『蜻蛉日記』の作者と兼家について

蜻蛉日記2

西暦(年号)	作者年齢	兼家年齢	出来事
九五四 (天曆八)	十九	二六	初夏、兼家が作者に求婚 秋、作者と兼家結婚
九五五 (天曆九)	二十		八月下旬、作者が道綱を出産 九月、兼家が町の小路の女に宛てた手紙を、 作者が発見
九五七 (天徳元)	二二		十月下旬、兼家三晩来ず 夏、町の小路の女、男子出産
九六六 (康保三)	三一		三月、兼家、作者邸で発病。後日、作者見舞 いに兼家邸へ 八月、兼家とのいさかい
九七四 (天延二)	三九		一月、去年の八月以来、兼家の訪れなしの記述
『蜻蛉日記』以降			十月、兼家、右大臣に昇進 六月、兼家、摂政となる 一二月、兼家、太政大臣となる
九七八 (天元元)			兼家、閑白となる
九八六 (寛和二)			七月、兼家 没
九八九 (永祚元)			
九九〇 (正暦元)			
九九五 (長徳元)			作者 没

年 組 氏名

蜻蛉日記3

本文中の和歌を読む

※和歌の解釈（口語訳）を、皆さんの日常の言葉遣いを用いて書いてみよう。

○うたがはしほかに渡せるふみ見ればここやとだえにならんとすらむ

〈解釈〉

[Blank box for interpretation]

○嘆きつつひとり寝る夜をあくる間はいかに久しきものとかは知る

〈解釈〉

[Blank box for interpretation]

★この歌を受け取った兼家の気持ちを想像してみよう。

「……そして、実際の返事は次の歌。」

○げにやげに冬の夜ならぬまきの戸を遅くあくるはわびしかりけり

〈解釈〉

[Blank box for interpretation]

年 組 氏名

蜻蛉日記3

本文中の和歌を読む

※和歌の解釈（口語訳）を、皆さんの日常の言葉遣いを用いて書いてみよう。

○うたがはしほかに渡せるふみ見ればここやとだえにならんとすらむ

〈解釈〉

あやしいな。浮気相手にあける手紙を見ると、私のところに来たのは、  
(私は)捨てられるんだってな。

○嘆きつつひとり寝る夜をあくる間はいかに久しきものとかは知る

〈解釈〉

秋が兼家さんに来たのは夜とこんな悲しんで一人下  
頼むるまで。後、1いるのれどうして兼家さんは、  
早く帰って来てよ。

★この歌を受け取った兼家の気持ちを想像してみよう。

「……そして、実際の返事は次の歌。」

○げにやげに冬の夜ならぬまきの戸を遅くあくるはわびしかりけり

〈解釈〉

本当に、冬の夜は長いから外で待つのはつらいけど、  
あなたが戸を開けてくれないのも、同じくらいに  
つらいんだよ。

年 組 氏名

○『蜻蛉日記』の学習を通しての感想を書いてください。  
良かったこと、気づいたことなどを自由に書いてください。

○兼家は作者のことを、どのように思っていましたか。自分が兼家だったらと想像して、理由も含めて書いてみよう。

ワークシート③ 記入例

年 組 氏名

和歌が途中に入る作品は、心情がよくわかるので楽しく感じました。  
登場人物が少ないから読みやすかった。

○『蜻蛉日記』の学習を通しての感想を書いてください。  
良かったこと、気づいたことなどを自由に書いてください。

作者は本妻でなかったから、そこまで作者を想っていたとは思わない。  
兼家は権力もあつたからたくさん女性の好かれていたはずだから、その中で気に入つた程度の女性だつたと思う。

○兼家は作者のことを、どのように思っていましたか。自分が兼家だったらと想像して、理由も含めて書いてみよう。

蜻蛉日記4

### 事例 3

## 内容に即して筆者の心情や人物像を考えながら読む

### 1 ねらい

新学習指導要領の「古典B」の指導事項「(1) イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。」を指導の中心に取り上げる。「古典B」の言語活動例の「ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章の表現を根拠にして話し合うこと。」を参考にして設定した、「筆者の心情や人物像を考え、話し合う」という言語活動を通して、古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえるという言語能力を育成する。

この実践では、学習内容に対して納得をもって理解させることで、生徒が学ぶ楽しさを感じられるようにした。学習内容に対して納得をもって理解させるため、授業の中に、現代語訳をするだけであると、おそらく生徒が見過ごしてしまうような部分（筆者の心情の揺れ）を、ワークシートでの作業やグループでの話し合いによって丁寧に読みといていく学習場面を設けた。

### 2 学習活動の概要

(1) 単元名 随筆 『枕草子』－「二月つごもりごろに」－

#### (2) 単元の目標

- ① 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえようとする。(関心・意欲・態度)
- ② 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。(読む能力)
- ③ 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。(知識・理解)

#### (3) 取り入れる言語活動

筆者の心情や人物像を考え、話し合う。

#### (4) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
本文を構成や展開に即して的確にとらえて読む中で、内容に即して筆者の心情を考えようとしている。	本文を構成や展開に即して的確にとらえて読む中で、内容に即して筆者の心情を考えている。	形容詞の語幹の用法や絶対敬語など、読解に関わる主な文法事項について理解している。

(5) 指導と評価の計画（全4次）

次	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>●清少納言についてのイメージをもつ</p> <p>(1)清少納言の人物像を考え、発表する。</p>	<p>○以前に学習した『枕草子』の文章を基にして人物像を考えさせる。</p>	
2	<p>●本文の内容を把握し、読解に関わる主な文法事項を理解する</p> <p>(1)本文を音読する。</p> <p>(2)現代語訳をしながら内容を把握する。</p> <p>(3)形容詞の語幹の用法や絶対敬語など、読解に関わる主な文法事項を確認する。</p>	<p>○机間指導をする。</p> <p>○主語を補って訳させる。</p> <p>○筆者の心情を表す言葉に注意させる。</p>	<p>知識・理解</p> <p>[行動の観察]</p>
3	<p>●内容に即して筆者の心情を考える</p> <p>(1)場面ごとに「筆者の心情」と「筆者がそのように感じた理由」をまとめる。はじめは個人で考え、途中からはグループで話し合いながらまとめる。〔ワークシート① 〔資料1〕〕</p> <p>(2)「内侍に奏してなさむ」とはどういう評価であるのかを考える。</p> <p>(3)返答の評価を聞いた後の筆者の心情を想像し、発表する。〔ワークシート② 〔資料2〕〕</p> <hr/> <p>●「空寒み」の歌を理解する</p> <p>(1)「空寒み」という筆者の返答の何がすばらしいのかを考える。</p>	<p>○机間指導をする。</p> <p>○「内侍」とはどのような位であるのかを、国語便覧を使用して確認させる。</p> <p>○周囲の生徒と意見交換させる。</p> <p>○教科書の語注を使用し、説明する。</p>	<p>読む能力</p> <p>〔ワークシート①の記述の確認〕</p>
4	<p>●筆者の人物像を考える</p> <p>(1)再度、清少納言の人物像を考える。〔ワークシート② 〔資料2〕〕</p>		<p>関心・意欲・態度</p> <p>〔ワークシート①、ワークシート②の記述の分析〕</p>

### 3 授業の様子

【第1次】清少納言についてのイメージをもつ。

ここは単元の導入として0.5時間程度で実施した。

「清少納言の人物像を考える」場面では、中学校で学習した「春はあけぼの」、高校で学習した「木の花は」、「村上の先帝の御時に」、「雪のいと高う降りたるを」などを基にして、自分が抱いている清少納言のイメージを挙げさせた。生徒からは「プライドが高く負けず嫌いな才女」、「自分に自信がある」、「他人をよく観察していそう」、「紫式部と仲が悪そう」、「四季が好き」、「中国のものが好き」などの意見が出た。周囲と相談させたため少々時間がかかったが、活発に話し合っている様子が見られた。

【第2次】本文の内容を把握し、読解に関わる主な文法事項を理解する。

ここは約1.5時間をかけて展開した。

「現代語訳をしながら内容を把握する」場面では、主語を補いながら訳すように生徒に指示した。また、内容を理解する上で特にポイントとしたい文法事項（形容詞の語幹の用法や絶対敬語）については、その都度確認しながら読み進めた。

【第3次】内容に即して筆者の心情を考える。「空寒み」の歌を理解する。

ここは、ワークシートを使用しながら約1.5時間をかけて展開した。

まず、ワークシート①(資料1)を使い、内容に即して筆者の心情を整理した。筆者の心情の変化が分かるように、このワークシートは本文の五つの場面ごとに、筆者の「心情」と筆者がそのように感じた「理由」を整理するようにしてある。なお、「心情」は本文からの抜き出しになるが、本文の抜き出しだけでは理解できない生徒がいるかもしれないことにも配慮して、隣に現代語訳も書かせるようにした。

「心情」は大部分の生徒が問題なくワークシートに記入していた。机間指導をした際、記入できていない者が数名いたため、現代語訳を参照させ、心情を表す言葉(「思ひわづらふ」など)に注目するようにヒントを与えた。

「理由」については、行き詰って書けなくなる生徒がいることが予想されたため、グループで話し合いながらまとめさせた。グループによって多少差はあったが、おおむね活発に話し合っていた。次に挙げるのは、「理由」についての生徒の意見の例である。

- 「公任の宰相からの課題が来る」場面で、筆者が「思ひわづらひぬ」と感じた理由
  - ・公任は和歌の名手だから
  - ・公任は偉い人だから
  - ・今日の天気によく合っている上手な下の句だから
  - ・軽い気持ちで考えた句は返せないから
- 「殿上の間にいる人々が誰かわかる」場面で、筆者が「心一つに苦しき」と感じた理由
  - ・公任の他にも立派な人がそろっているから
  - ・下手な返事をしたら期待を裏切ることになるから
  - ・中宮定子の評価にかかわるから

● 『空寒み…』という返事を書いて渡す」場面で、筆者が「わびし」と感じた理由

- ・自分の歌に自信がなかったから ・焦って投げやりに書いたので不安だったから
- ・中宮定子に相談できなかったから ・この答えによって自分の評価がどうなるかと思い、気になったから
- ・公任がどう思うか心配だったから ・この返答が中宮定子の評判にかかわるから

この後、授業ではワークシート②(資料2)を使い、「自分の返事の評価を聞いた後の筆者の心情」も想像して発表させた。「自分の返事の評価を聞いた後の筆者の心情」そのものは本文には書かれていないが、これを想像させることで、場面ごとに筆者の心情を整理してきた今までの学習の流れを発展させながら、「筆者の人物像を考える」という次の学習活動につなげることを意図した。生徒は自分が書いた内容を周囲と見せ合いながら、意見を交換していた。次に挙げるのは、「自分の返事の評価を聞いた後の筆者の心情」についての生徒の意見の例である。

- ・自分の歌を評価してくれてうれしい ・宰相をがっかりさせるような返事だと思われずよかった
- ・やっぱり私はすごかったんだ ・評価がよくなって安心した。定子様も喜んでくれるでしょう。
- ・やはり私には才能があるんだわ

【第4次】筆者の人物像を考える。

ここはワークシート②(資料2)の後半部分を使いながら、約0.5時間程度で展開した。次に挙げるのは生徒から出てきた意見の例である。

- ・ イメージでは何でも自信をもってこなす人だったけれど、手がふるえるほど不安に感じることもあるのだなと思った。
- ・ とても才能のある人だけれど、同じようにプライドも強く、だけれども、意外と期待されると弱気になることもあるのだと思った。
- ・ 清少納言は頭が良く、中宮づきの女房であるから、プライドが高く、自分に自信を持っているような人だと思っていたけれど、ふるえながら返事を書いたことから、意外と普通の人だと思った。
- ・ 臨機応変に対応できる人。
- ・ 教養や実力があるので、ピンチをチャンスに変えられる人。
- ・ 意外と自分に自信がない。
- ・ 体裁を気にする人。
- ・ やはり賢い人。

生徒が清少納言に抱くイメージは、授業の冒頭と比べて、格段に具体的なものとなっている。二重波線のように、様々な一面をもつ等身大の人物として清少納言をとらえる見方が複数出てきたのは、ワークシートでの作業や話し合いを通して丁寧に作品を読みといていく学習の中で、作品の内容をしっかりと把握できたことによるものと判断できる。また、作品の内容をしっかりと把握できたことが、次のような「授業後の生徒の感想」につながったと思われる。

## 【授業後の生徒の感想】

- ・ 清少納言は落ち着いている人かと思ったけれど、焦っていて意外な一面が見られたので、面白かった。
- ・ 清少納言の意外な一面が見られたような気がして楽しかったし、他のエピソードにも興味をもった。
- ・ 私にとっては、今までの作品よりけっこう分かりやすかったと思う。
- ・ 最初はどのような話か全然分からなかったが、清少納言の心情などが分かり、最終的には本文の内容まで分かったのでよかった。
- ・ 白居易は世界史でも習ったので、リンクしている感じがして楽しかった。
- ・ 学に対してとても評判がある人でも、期待にこたえられるだろうかというプレッシャーは常にあるのだと思った。でも、プレッシャーに打ち勝てた清少納言はすごい人だと思った。教養を身に付けることは大切なことだと感じた。
- ・ 自分が高く評価された出来事を文章にするのは、自慢したかったのだなと思った。様々な文章を知っているといろいろな面で役に立つなあと思った。
- ・ この「二月つごもりごろ」は『源氏物語』の次に心に残るお話だった。紫式部と清少納言はそれぞれが違う感じであり、もっと二人の作品を読みたいと思った。
- ・ 「二月つごもりごろ」を学習して才能のある人は大変だなと思いました。しかし、どんな場合でも上手な歌を作ることができる人もすごいと思います。
- ・ 清少納言の心情が場面ごとにいろいろと変わっていくことに気付くことができ、おもしろかった。
- ・ 昔の人の季節を感じる心や、空を眺めたり、その空模様に合わせて歌を作ったりする美しい心に感動しました。どんな小さな美しいことでも、それを深く感じる心は、現代人にはないものだと思います。
- ・ 平安時代の作品は本当に漢詩を踏まえているものが多いんだなと思った。また、ほめられた話が多いという点も、清少納言は面白いと思った。
- ・ 空が暗くて雪が降っているのにもかかわらず、少し春がある感じがするなんて、どういうことだろうと思っていたが、清少納言の返しを聞いてなるほどと思えた。

生徒の感想から、才女のイメージがある清少納言にも意外な一面があることにおもしろさを感じた生徒が多数いることが分かった(波線)。また、作品内容に対して納得をもって理解をしたと思われる生徒(実線)や、古文が他の教科などと関わる可能性があることに気付いた生徒(二重波線)、「教養は身につけた方が良い」、「様々なことを知っている」と役に立つ、「他の古典作品を読みたい」などと感じた生徒(破線)などもいた。

## 4 評価の例

読む能力の評価は、主として第3次の授業後に、ワークシート①(資料1)の記述を確認することで行った。本文の内容を基にして筆者の心情を適切にまとめてあるものを「おおむね満足できる」状況(B)とした。ワークシート①記入例(資料1)は「おおむね満足できる」状況(B)と見なすことのできる例である。「努力を要する」状況(C)と判断した生徒には、心情を表す言葉(「思ひわづらふ」など)に注目させたり、現代語訳を基にしてその場面の状況を考えさせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

知識・理解の評価は主として第2次に行った。現代語訳をしながら内容を把握する学習場面において、文脈上の主語や、本文の内容を理解する上で特にポイントとしたい文法事項(形容詞の語幹の用

法や絶対敬語)を正確にとらえているかどうかを、生徒の発言や授業の様子を観察することで評価した。文脈上の主語や、本文の内容を理解する上で特にポイントとしたい文法事項(形容詞の語幹の用法や絶対敬語)を正確にとらえて現代語訳ができている生徒を「おおむね満足できる」状況(B)とした。「努力を要する」状況(C)と判断した生徒には、本文の内容を理解する上でポイントとなる文法事項に気付かせたり、文法書や辞書で調べさせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

関心・意欲・態度の評価は、主として第4次の授業後に、ワークシート①(資料1)やワークシート②(資料2)の記述を分析することで行った。本文で読み取った内容(ワークシート①(資料1)に整理した内容)を基にして筆者の心情や人物像をまとめようとしているものを「おおむね満足できる」状況(B)とした。3クラスで実施したが、大部分の生徒が筆者の心情や人物像をまとめることができた。ワークシート②記入例(資料2)は、本文から読み取った内容を基にして「筆者の人物像」がまとめられていることに加え、「自分の返事の評価を聞いた後の筆者の心情」が具体的に考えられていることから、事例実践校においては「おおむね満足できる」状況(B)の中でも優れたものであると判断し、「十分満足できる」状況(A)と見なした。「努力を要する」状況(C)と判断した生徒には、現代語訳を参照させたり周囲の生徒と話し合わせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

本事例の成果としては、次のようなことが挙げられる。

#### ア 本文の内容に対して、生徒が納得をもって理解する場を作ることができたこと

今回の授業では、現代語訳をするだけであると生徒が見過ごしてしまうような「筆者の心情の揺れ」を、ワークシートでの作業や話し合いを通して丁寧にたどる学習場面を設けた。「授業後の生徒の感想」からは、生徒が、本文の内容に対して「分かった」と感じたり、本文の内容の理解の上に立って清少納言の心情の揺れを共感的に受け止めたりしていることが分かる。

本実践では、「筆者の心情の揺れ」を、ワークシートでの作業や話し合いを通して丁寧にたどる学習場面を設けたことで、生徒が納得をもって理解する場を作ることができたものと思われる。

#### イ 能動的に学習に取り組む姿勢が見られたこと

古典の学習において生徒は受け身の態度をとりがちであるが、今回の授業では、グループでの話し合いという言語活動を取り入れたことによって、積極的に話し合いに加盟したりワークシートにまとめたりするなど、能動的に学習に取り組む様子が見られた。

### (2) 課題

課題としては、次のようなことが挙げられる。

#### ア 読解を深める授業を継続していくこと

本文を現代語に訳すだけでなく、本文の読解を深める学習活動を授業の中に取り入れると、教材に対する生徒の理解も深くなる。そのため、現代文と同じように読解をする古典の授業を今後も続けていく必要がある。

## 使用教科書

『改訂版高等学校古典 古文編』第一学習社



二月ついでもりごろに② 三年 (組) (番)

☆「内侍と奏してなきむ」とは、作者の返事に対してどう評価したのか。考えてみよう。

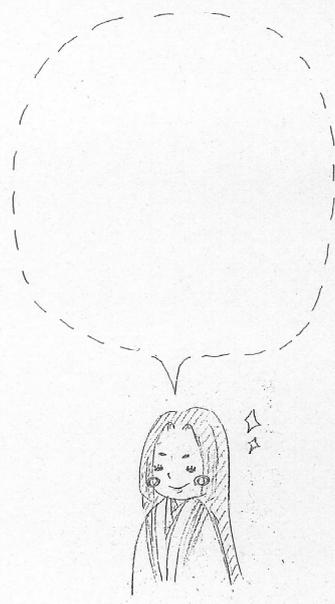
ステップ1 「内侍」とはどのような位なのか調べてみよう。

ステップ2 どう評価したのか。

清少納言の歌(上)の句は

☆ 自分の返事の評価を聞いて、作者はどう思ったか？ 清少納言のつもりで考えてみよう。

☆ この文章から、清少納言はどのような人物だと思ったか、書いてみよう。また、そのように思った理由も書いて。



二月ついでもりごろに② 三年

☆「内侍と奏してなきむ」とは、作者の返事に対してどう評価したのか。考えてみよう。

ステップ1 「内侍」とはどのような位なのか調べてみよう。

内侍 侍 正式の内侍ではない。  
 侍 侍 中宮ツキの女房  
 侍 侍 それなりの高き位

ステップ2 どう評価したのか。

清少納言の歌(上)の句は すばらしい  
 良い  
 褒めていい

☆ 自分の返事の評価を聞いて、作者はどう思ったか？ 清少納言のつもりで考えてみよう。

☆ この文章から、清少納言はどのような人物だと思ったか、書いてみよう。また、そのように思った理由も書いて。

直後 ↓ 褒めてもらえて嬉しかったわ。  
 30秒後 ↓ エキは私！  
 かなんか聞きたー！褒めてもらうええだ。  
 そうだ、枕草子にもこのことを書いてる。

プライドが高い(全体的に自分への評価が高い)  
 機転が利く(匂いを含ませ機転)  
 知識が豊富  
 体裁を気にする(「おとたんか」と聞くとこから)

